

JACME Newsletter

No.1

一般社団法人 日本医学教育評価機構
Japan Accreditation Council for Medical Education

2017年8月 発行

JACME 発足の経緯と展望

奈良 信雄 [日本医学教育評価機構常勤理事]



1 国際評価機関としてのJACME

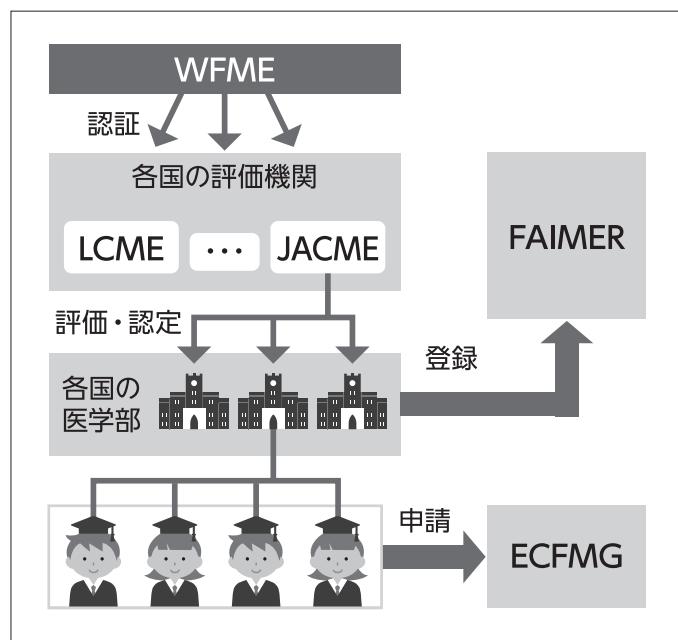
2010年9月、アメリカの外国人医師卒後教育委員会 (Educational Commission for Foreign Medical Graduates: ECFMG <http://www.ecfmg.org>) は、全世界に向けて「2023年以降、国際基準に基づいて認定された医学部以外の卒業者にはアメリカで医師になる申請資格を与えない。」と通告した。いわゆる2023年問題とも称される通告を受け、2011年に全国医学部長病院長会議に「医学教育の質保証検討委員会」を発足させて、対応の協議を開始することとなった。さらに、2012～2016年度文部科学省大学改革推進等事業を受けて調査研究を行い、医学教育評価制度の確立を検討することになった。

ECFMGの通告に適合するには、世界医学教育連盟 (World Federation for Medical Education: WFME <http://wfme.org>) の認証する公的評価機関が、国際基準に基づいて医学部の教育を評価し、認定することが求められる。そこで、2015年12月1日に全医学部が正会員として参加する一般社団法人日本医学教育評価機構 (Japan Accreditation Council for Medical Education: JACME <https://www.jacme.or.jp>) を発足させ、医学教育分野別評価を担当することとした。

JACMEでは、医学教育分野別評価体制、評価法、評価基準、評価者養成システム、認定法等を策定し、国際的に通用する評価機関として認証を受けるべくWFMEとの交渉を開始した。この間、2013年12月から2017年1月までに、策定した評価法に基づいて合計18医学部を対象に、文部科学省大学改革推進等事業による試行として医学教

育分野別評価を実施した。(※)

JACMEによる医学教育評価制度は、WFMEへの申請書に対する書面調査、2016年9月に東京医科大学で実施したJACMEの実地調査へのWFME委員査察、さらに11月にJACME総合評価部会の認定会議に対するWFME委員の査察等によってWFMEから評価を受けた。そして、WFME委員会での協議を経て、2017年3月18日にJACMEはWFMEから国際評価機関として適格であるとの認証を受けた。



2 JACMEによる評価受審の手続き

WFMEによるJACMEの認証は世界7番目で、認証期間は10年である (<http://wfme.org/accreditation/accrediting-accreditors>)。JACMEがWFMEによって認証を受けたことで、2017年4月から医学教育分野別評価の正式実施が開始されることとなった。

正式実施では、受審校は受審希望を予めJACMEに申請し、JACMEが受審日程を調整の上、決定される。受審日程が決まると、受審校はJACMEの定める評価基準 (<https://www.jacme.or.jp/accreditation/wfmf.php>)に基づいて自己点検評価を行い、自己点検評価報告書の電子データを実地調査日の3.5ヶ月前までにJACMEに提出していただく。JACMEは自己点検評価報告書のフォーマット、内容を確認し、必要に応じて修正を受審校に依頼する。受審校は自己点検評価報告書を適宜修正した後に印刷製本し、実地調査日の2.5ヶ月前までにJACMEに根拠資料を併せて自己点検評価報告書をそれぞれ10部郵送することが求められる。受審に関わる諸手続き、評価基準、書式等は、JACMEのホームページに掲載しているのでぜひご覧いただきたい。

受審校の評価では、原則としてJACMEの評価員7名が担当する。評価員は自己点検評価報告書を精査した後で5日間の実地調査を行い、受審校の医学教育を評価する。実地調査では、第1日目の評価者会議に続き、評価基準領域別の討議、学生・研修医・教員等との面談、基礎医学・臨床実習の観察、研究室配属の確認、講義室・図書館・実習室・シミュレーションセンター・自習室等の施設見学などを3日間かけて行い、5日目に講評を行う。その後に評価員は評価報告書(案)を作成し、評価委員会で審議の後、受審医学部に通知する。

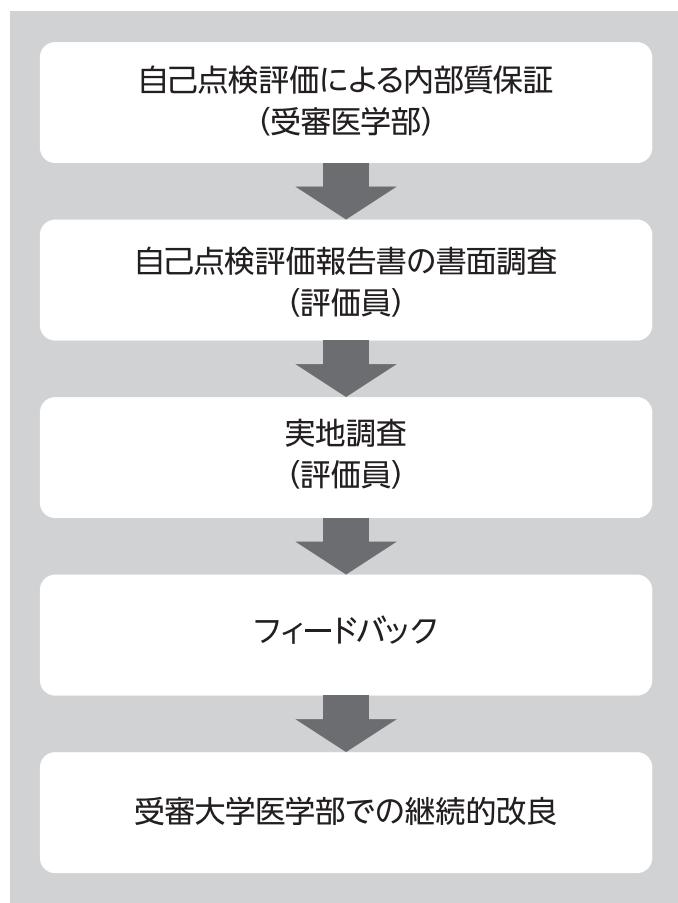
評価報告書には、受審医学部の教育プログラムで優れた点や特色ある取り組みを評価し、改善が必要な事項があれば助言、示唆として受審医学部に改善を依頼する。評価報告書(案)は受審医学部に送り、当該医学部で確認の上、総合評価部会、理事会の決定に基づき、正式な評価報告書となる。なお、評価報告書(案)の内容等に疑義がある場合には、異議審査委員会に異議を申し立てることができ、評価委員会とは独立した異議審査委員会で審議される。

評価報告書に基づき、総合評価部会で7年間の「認定」か、3年間の「期限付認定」が審議され、理事会で協議し決定される。「期限付認定」の場合には、2年内に改善報告書をJACMEに提出し、追加審査が行われた上で適合と判定されれば受審年度から7年間の「認定」となる。

認定を受けた医学部は、アメリカの国際医学教育研究推進機構 (Foundation for Advancement of International Medical Education and Research: FAIMER <http://www.faimer.org>) に登録し、登録された医学部の卒業者はECFMGに申請できる仕組みになる。

JACMEによって認定された医学部は、自校のホームページ等で、自己点検評価報告書、評価報告書、必要により改善報告書を公開し、JACMEのホームページでもリンクを行う。こうした公開により、社会に対する透明性が担保される。

JACMEによる医学教育評価のプロセス



3 ECFMGへの申請

日本の医学部を卒業後にアメリカに渡航し、①アメリカ卒後医学教育認証評議会 (Accreditation Council for Graduate Medical Education: ACGME) の認定したプログラムで研修を受けたい、②アメリカ医師国家試験 (United States Medical Licensing Examination: USMLE) Step 3を受験したい場合には、ECFMGに申請して資格を取得する必要がある。

ECFMGへの申請には、下記の要件を満たしておく必要がある。

1) 申請書

申請者の氏名、連絡先、世界医学校要覧 (World Directory of Medical Schools <http://www.wdoms.org>) に登録された医学部の卒業もしくは在学 (卒業見込の場合) 等を記載した申請書。なお、2023年以降はJACMEによって認定を受け、FAIMERに登録された医学部の卒業であることが必須要件となる。

2) USMLE Step 1とStep 2の合格

USMLEのStep 1とStep 2に合格していることが必須である。アメリカで医業を行うのに必要な医学知識はStep 1とStep 2 CK (Clinical Knowledge) で、技能・態度はStep 2 CS (Clinical Skills) で評価され、いずれにも合格しておくことが求められる。

USMLE受験に関し、試験日程、試験会場、受験料、資料等は下記のホームページで確認できる (<http://www.usmle.org>)。

3) 学位記

医学部を卒業し、医学士であることを示す学位記証明書が必要である。

手続きを経てECFMGから資格が認定された後は、渡航に必要なVISA申請、研修病院マッチング等が必要になるが、これらの手続きについてはECFMGのホームページをご確認いただきたい。

4 JACMEによる医学教育評価の意義

JCAMEの設立と医学教育評価制度確立は前述のように ECFMGの通告が契機になった。しかし、医学教育の分野別評価は、単に ECFMG 対策というだけではなく、全医学部における医学教育の質を保証するという重大な意義がある。

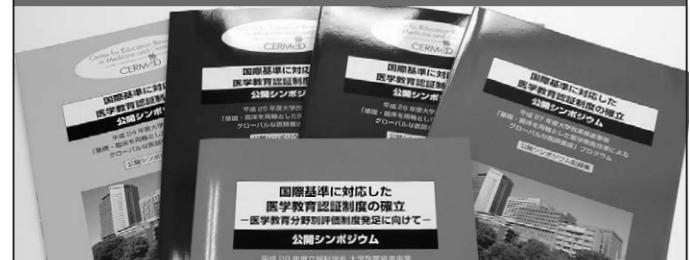
わが国の高等教育の質保証は、2002年の学校教育基本法改正を受けて、2004年以降はすべての大学が大学基準協会、大学改革支援・学位授与機構、高等教育評価機構のいずれかによる機関別認証評価によって行われている。しかしながら、国民の健康の維持・増進という社会的使命が大きな医師の養成にかかる医学教育プログラムの評価は機関別認証評価だけでは十分とはいせず、医学教育の質を保証するために医学教育分野別評価は重要である。

JACMEが7年ごとに医学部の医学教育分野別評価を行うことは、医学教育プログラムを見直し、継続的な改良につながり、社会の要請に応えることとなる。さらに、国際標準の医学教育であることの保証は、医学・医療のグローバル化にも対応でき、日本の医学・医療の水準を世界に発信する上でも意義深いと言えよう。

JACMEによる医学教育分野別評価の円滑な実施には、全医学部のご協力が欠かせない。関係各位のご理解、ご支援を切にお願いする。

(※)文部科学省大学改革推進事業「国際基準に対応した医学教育認証制度の確立」について

「トライアル評価」の情報を知りたい方は…



JACMEホームページに
「トライアル評価」の情報を
掲載しています。



携帯・スマートフォン
からもアクセス
できます!

https://www.jacme.or.jp/jacme_old/index.html

JACME 広報誌「対談」

医学教育分野別評価受審は“Window of Opportunity”

新潟大学 鈴木 利哉 教授 × 東京医科大学 泉 美貴 教授 司会：慶應義塾大学 平形 道人 教授



平形 本日は医学教育分野別評価を既に受審されている新潟大学の鈴木先生、東京医科大学の泉先生に、これから分野別評価を受審する大学に向けてお話を伺います。分野別評価の受審が決定された時、どのように対応し、そしてどのような準備をすればよいのか、大変ご苦労されたと思います。そこで、受審に向けて自己点検評価報告書準備のための組織体制づくり、自己点検評価報告書の作成、その他実地調査における見学施設や面談者の選定等に分けてそれぞれの取り組みについてお話を伺います。

受審に向けて組織体制づくり

平形 まず、受審に向けて組織体制づくりについてお聞きします。先生方、受審された年度はいつですか。

鈴木 新潟大学は2013年です。当時の医学部長が受審を決定し、ただちに自己点検評価委員会を設置しました。各領域に担当教授一人、総合医学教育センターの准教授3人がそれぞれ補佐するという体制です。特に領域8、9は準備するのが難しいので、それぞれ5名の教授が担当し、受審1年前から月1回の委員会を開催しました。委員長は医学部長です。各教授に原稿を執筆していただき、それを委員会においてプラッシュアップしました。

平形 受審の1年前に委員会を設置して自己点検評価報告書の作成から対応を開始したのですね。

泉 東京医科大学は、2016年の9月です。1年半前の2015年の4月に、学科長を委員長とする「医学教育評価・点検・改善委員会」を設置し、領域1～9別に5人～10人の主任教授を主体とした担当をお願いし、それぞれにリーダーと幹事を配置しました。医学教育推進センターの当時副センター長だった私と学生部長など5人が副委員長となり総勢53名、さらに事務局長、総務課、学務課などの事務職員も委員として参加してもらいました。

平形 新潟大学は1年前に委員会を設置して準備を始めたということですが、通常は1年半か2年前から準備すると思います。準備期間が短かったです。

鈴木 本当は2年以上準備期間が欲しいところでしたが、受審を決めてから実際の受審まで時間がありませんでした。

平形 東京医科大学は1年半前から準備されたということでしたが時間が充分でしたか。

泉 日本医学教育評価機構が世界医学教育連盟 (World Federation of Medical Education: WFME) より国際認証評価を受けるため、WFMEの調査委員が東京医科大学を視察することになり、それを引き受けた関係で自動的に1年半前になりました。

平形 そうするとやはり準備期間は2年程度必要ということでしょうか。

鈴木 はい。2年以上必要です。

平形 多くの教授に担当してもらって準備に取り組まれたことは素晴らしいことです。両大学とも受審準備のための委員会と考えてよろしいですか。

泉 東京医科大学は、実は5年前からカリキュラム改変実行委員会が活動しており、3年前から新カリキュラムを導入しているという流れがあり、また、昨年が創立100周年でしたので、1年前から「東京医科大学中長期計画2025」の作成のための委員会が動いておりましたので、評価受審はカリキュラム改変や100周年の中長期計画策定と齟齬がないように進めてきました。

鈴木 新潟大学も、ちょうど2014年から実施する新カリキュラムを準備していました。医学教育分野別評価受審とは無関係に準備していたのですが、2013年の受審が決まり、それに連動させて新カリキュラムをスムーズに作成し、導入することができました。

平形 両大学とも、ちょうどカリキュラム改定等と受審が重なり、ちょうどよい機会であったことが分かりました。ところで、受審を決定する時は教職員の総意が非常に大切だと思います。学内で、分野別評価を受審するという共通の目標、認識を共有するためにどうされましたか。

鈴木 新潟大学では医学部長のリーダーシップにより受審が決まりました。医学部長が先頭に立って旗振りしたこともあり、すみやかに教職員に受け入れられました。

平形 教育におけるリーダーシップを發揮して改革を推進し、そのため医学教育分野別評価を受審する。大変素晴らしいことだと思います。東京医科大学はどのような状況でしたか。

泉 東京医科大学も、理事長や学長のご理解を得られたのが大きいです。受審に向けて、理事長、学長、私とで説明会をたくさん開催しました。理事・教授対象説明会、准教授対象説明会、研修医、学生まで時間をかけて説明しました。また、意識づくりのために、ミッションカードを教職員と学生全員分作成し、携帯してもらいました。教室内外にミッションや教育到達目標を貼って、常に意識してもらえるようにしました。



**新潟大学
鈴木 利哉 教授**
1983年東京医科歯科大学卒。専門は医学教育学と血液内科学。



**東京医科大学
泉 美貴 教授**
1988年川崎医科大学卒。現在は、東京医科大学医学教育学分野の教授。専門は皮膚病理診断学と医学教育学。



**司会 慶應義塾大学
平形 道人 教授**
1983年慶應義塾大学医学部卒。現在、慶應義塾大学医学部医学教育統轄センター長、卒後臨床研修センター長。専門は医学教育学、内科学、リウマチ学、臨床免疫学。

人員・予算の確保について

平形 医学教育分野別評価に対する認識を周知する活動は両大学とも十分に行われていたと思います。それでは、人員や予算の確保をどのようにしたか教えてください。

鈴木 新潟大学では事務部がこの受審を真摯に受け止めて精力的に対応してくれました。経費的には医学科の教育予算に特別な予算を措置してもらいました。

平形 受審の準備にあたり、事務職員等の増員はあったのでしょうか。

鈴木 いいえ。既存の職員をフル動員して対応しました。

泉 東京医科大学も私学ですので本来予算は厳しいはずなのですが、この受審に関しては、特別予算を組んで頂けました。理事長、学長、学科長、事務局長などにご理解をいただけたことに感謝しております。また、受審のために事務員として派遣職員を1名雇用していただき、大変助かりました。

鈴木 東京医科大学は既にIR (Institutional Research) センターは設置されていたのではありませんか。

泉 初めてWFMEの評価基準を認めた際に、本学で整備が不足していると思ったのが、ネット環境とIRでした。そこで、予算を確保してネット環境を整え、さらにIRセンターを設置し、専任教員2人と事務職員1人を整備して頂きました。

平形 組織体制として、両大学とも委員会組織を整備されていました。また、医学教育分野別評価で重視されているIRも立ち上げは早い方が良いということですね。逆に、医学教育分野別評価の受審を経験した大学でなければ分からぬ苦労された点についてお聞かせください。

鈴木 新潟大学は初めての受審でしたから、参考にできるものが東京女子医科大学が2003年版の世界医学教育連盟の基準を用いた世界医学教育連盟による医学教育医学教育分野別評価を受審したトライアルのときの自己点検評価報告書しかありませんでした。医学教育分野別評価を受審するときには2012年版の世界医学教育連盟の基準をもとに医学教育学会で作成した医学教育分野別評価基準日本版により記載することが求められました。36の項目についてそれぞれABCDを書けということでした。ところがこのABCDが何を書けばよいのかよく分からない。困りました。現在では何を書けばよいのかよく分かるように基準が改訂されています。分野別評価受審のときは各領域における受審大学と外部評価者の質疑応答が最も重要な部分ですが、私は韓国で行われている受審の様子を撮影した写真を参考にして質疑応答の会場を設営しました。写真しかヒントがなかったのです。1年間の準備期間中分からぬことばかりで右往左往してしまったというのが正直なところです。

泉 東京医科大学では、各領域ご担当の先生が記載されるに際し、記述方法の統一や記載内容に齟齬がないように、全体を通してチェックするのが大変でした。主任教授の先生方が一生懸命書かれた内容ですから、ディスカッションして、納得いただいた上で手直しをしました。これに一番気を遣いました。また、評価基準の訳が難しく、英語の原文に戻らないと、あるいは戻ってさえも理解ができないことが多かったことも苦労しました。

平形 ところで、医学教育分野別評価受審における最も重要なキーパーソンについて教えてください。

鈴木 医学部長、教育担当副学部長と学務委員長の力強いご支援をいただきました。また、総合医学教育センターの教員3名がキーパーソンとなって活動しました。自己点検評価報告書作成に必要なデータを集

め、領域担当教授に提供してサポートし、考えられる細かな準備作業全般をセンターの教職員全員が医学科事務部と連携して対応しました。泉 東京医科大学は、理事長、学長、学科長、事務局長がキーパーソンでした。この4人のご理解とご支援が一番重要なポイントでした。それから、もし、専任の医学教育学の教員がいなかつたら非常に大変であったと推測します。もし私が兼任でしたら、限りなく不可能ではなかつたかと思います。さらに医学教育推進センターに優秀な事務員がいたことも大きかったです。

平形 医学部の統括・執行責任者、医学教育専門部門が中心となって分野別評価受審の準備を進めることができないということが共通のポイントですね。

自己点検評価報告書の作成

平形 受審に向けての準備で自己点検評価報告書の作成が一番大変な作業であったかと思います。医学教育分野別評価の受審準備に対する全体のプロセスの中で、自己点検評価報告書の作成は、どの程度の割合を占めている印象でしょうか。

鈴木 自己点検評価報告書作成と、根拠資料の収集、資料集作成も併せて準備から実地調査まで全部含めたうちの約80%のエフォートを占めていると思います。

平形 自己点検評価報告書作成にあたって、作成の基本的なコンセプトや執筆方法を理解するために行ったことは何ですか。

鈴木 新潟大学は初めてでしたので、東京女子医科大学が受審したときの自己点検評価報告書を参考にしました。日本版基準はそのときの基準とはかなり違っていたので苦労しました。

平形 東京女子医科大学の自己点検評価報告書を参考にされたのですね。泉先生も何か参考になったことがありますからお願いします。

泉 ABCDの記載方法ですが、一番初めはこれまで受審した大学を全部並べて一覧表にして参照しようと試みたのですが、結局は自校の内容について委員会の先生方とディスカッションしながら検討するようになり、ほとんど使用しませんでした。

平形 他大学の自己点検評価報告書を参考にするにしても、各大学で教育プログラムや教育環境は異なるので、最終的には大学の現状や課題に基づいて検討し、独自の報告書を作成したということですね。WFMEのグローバルスタンダードの日本版を基準に報告書を作成するのですが、英文から和文への翻訳上の問題や国外とわが国の大学と医療・医学教育のシステムや環境による解釈の相違の問題などから、理解に苦しむことがあると聽きますが、どのように対応されましたか。

泉 評価基準の表現は、本当に分かりにくいです。というか、日本の事情が特殊だということがよく分かりました。背景が異なるので、訳すに訳せないわけですから。

そこで、私が頼りにしたのは外国人教員に聞いたり、IRの責任者にご教授していただき、議論しては書き直す

という作業を繰り返しました。

鈴木 泉先生がおっしゃったことは大変重要で、私も大学機関別認証評価担当の先生に日本版基準すべてについてアドバイスをもらいました。大学の機関別認証評価担当教員に手伝ってもらうと自己点検評価報告書を適切な記述で書くことができると思います。

平形 報告書の根拠資料も大切ですが、その収集、整理・編集作業は自己点検評価報告書作成以上にご苦労されたのではないかと思いますが、どのように作成されたかお聞かせください。

泉 それまでの受審校では根拠資料の作成方式は、各エリアの最後に資料名と資料番号が記載され、別冊資料集には目次に資料番号のペー

ジが記載されており、その番号のページを引くという3段階方式になっていました。本学では、エリア内の小項目ごとに直ぐに資料名と資料番号を記載し、番号は全部通し番号にしました。そうすることにより、1段階で資料を検索できるようになりました。例えば、小エリアの資料欄に11と記載されいたら、別冊資料集の11というタグを開くだけですみます。報告書や資料集は、どうしたら評価員の先生方が読みやすいかという点を意識しました。

平形 それは評価者の視点にたった素晴らしい整理法で、これから受審を予定している大学も大変参考になりますね。

教職協働が重要

平形 最初は多数の教員が分担執筆したのを、最終的には一人から数人の編集責任者が全体を包括的に査読する作業が必要だと思いますがいかがでしょうか。

鈴木 私と大学機関別認証評価を担当している先生とふたりで自己点検評価委員会で作成した全文章をあらためて査読したうえ、すべての文章をブラッシュアップしました。さらに事務部の課長に全文を確認してもらいました。

泉 腹を決めて、全部とおして私が手を入れました(笑)。それを事務局長に、さらにIRの責任者にも確認してもらい、最後に学長、学科長にも目をとおしていただきました。資料は全て事務局の全面的な協力により各部署から提出してもらいました。

平形 事務職員も一緒に協働して対応する教職協働が重要なんですね。

泉 教員と職員が協力して対応することは本当に重要ですね。

平形 医学教育分野別評価に限らず、医学教育において重要な取り組みですね。これは今回皆様にお伝えしたいと思います。さて、受審対応として、外部講師によるFDを行ったかどうかお尋ねします。東京医科大学はわが国の医学教育のリーダーの先生方を招かれたそうですが、新潟大学もFDを開催しましたか。

鈴木 新潟大学は受審が決まった時に医学教育分野別評価の第一人者の先生に、自己点検評価と外部評価はどういうものなのか、2023年問題を含めて講演してもらいました。半年後にもう一度同じ先生に講演をお願いしました。その後もアウトカム基盤型教育の専門家に来てもらい、ワークショップ形式でFDを実施しました。モデル・コア・カリキュラムについても、専門家を招いてFDを実施しました。

実地調査について

平形 続いて実地調査についてお聞きします。授業の視察や外部評価者と面接する学生、研修医、教員を選定することなどスケジュール調整を含めて準備で苦労や工夫した点などを伺いたいと思います。

鈴木 新潟大学は二年生の学生委員が、新入の一年生の中から男子二人、女子一人を選んでクラス幹事を決めます。そのクラス幹事に学生面談にきてももらいました。大学としてはバイアスをかけないで、学生委員の判断で、良いと思う人が来てくれたと理解しています。

泉 それは良い案ですね。

鈴木 見学で特に重要だと思ったのは「外来実習」です。病棟実習は必ず予定されると思いますが、外来実習も予定された方がよいと思います。

平形 東京医科大学ではどのような状況でしたか。

泉 面談する学生には、面談に出席して質問されたら素直に答えるように指示しただけで、特にレクチャーはしませんでした。若手教員や

一般教育教員にも、何も前情報は入れずに送り出しました。

平形 宿泊施設(ホテル)、食事などについて、評価員の先生も大変なご苦労をされているから快適に泊まってほしいとか、あるいは、おいしいランチを配慮する大学もあったかと思いますが、その辺のご苦労はありましたか。

鈴木 日本医学教育評価機構からはおいしい食事を出すようになどということは言われていないですね。

泉 ただ、たしかに毎日同じお弁当では飽きるでしょうから、予算内で工夫したいですね。

平形 それでは、医学教育分野別評価を受審された感想、そしてこれから受審を希望されている大学へのメッセージをお願いします。

鈴木 自分の大学で行っている医学教育の全体像は意外と分からぬといふことが評価を受審することによってよく分かります。受審したために、自分の大学で行っている医学教育のよいところと改善を要するところを多くの教員間で共有できるようになりました。このときに学んだことを2014年からの新カリキュラムに反映させることができましたので、受審して大変よかったです。

平形 泉先生お願いします。

泉 分野別評価の受審に関しては、鈴木先生に同感です。ただ、本学の場合には、昨年9月に受審し、今年の6月に認定証をいただきました。8ヶ月の間に、大学の教育に対する熱が冷めてしまったのが残念です(笑)。できれば、早目に結果をいただければ、より熱いうちに学内で改善に結びつけることができると思います。それから、受審して評価された内容を各大学でどう活かすかが大事だと思います。大切なのは鈴木先生もおっしゃったように、自分の大学の教育を振り返って反省して、次に活かすことです。鈴木先生は新カリキュラムに活かすことができたと言われましたが、まさにそういうことです。受審までの頑張りだけで終わらせないことです。それが最も大事だと思います。

平形 最後に、受審を希望されている大学へのTips! メッセージをお願いします。

鈴木 決して苦労ばかり多くて実のない仕事ではないのです。医学教育分野別評価を受審することは必ずその大学にとってよいことがあります。準備に大変な苦労はあると思いますが、是非頑張って受審してください。

平形 泉先生お願いします。

泉 医学教育に関わる教員は、苦労しても色々と日陰的な存在であることが多いのですが、この医学教育分野別評価を「チャンス」として、教育予算を確保したり、施設を整えたり、今までできなかったことを、受審を機会に整備していくことができました。苦しい面もありますが、それが学生の為に繋がったと思えば疲れも吹き飛ぶのではないかと思います。

平形 受審することは自分達が気づかない点を第三者評価の機会を得て、教育の改善につなげられる絶好の機会であることは間違ひありません。私はリウマチが専門ですが、関節リウマチの治療では、“Window of Opportunity”という言葉があります。「最適な治療機会を逃さないで」という意味です。医学教育分野別評価を受審することは、医学教育の“Window of Opportunity”につながると思います。医学教育改革の貴重な機会を逃さないで、教育の質を高めることは極めて大切なことであると改めて認識いたしました。先生方、本日はお忙しいところありがとうございました。

JACME からお知らせ

1 新役員・新部会長・新委員長が選任されました

去る6月26日に開催された社員総会において新役員・新部会長・新委員長が選任されました。また、総会後に開催された臨時理事会において、理事長、副理事長、常勤理事が決まりました。

理事長	高久史麿（日本医学会連合名誉会長）
副理事長	伴 信太郎（愛知医科大学医学教育センター長）
副理事長	別所正美（埼玉医科大学学長）
副理事長	新井 一（全国医学部長病院長会議会長）
常勤理事	奈良信雄（日本医学教育評価機構理事）
理事	小川 彰（岩手医科大学理事長）
	車谷典男（奈良県立医科大学医学部長）
	鈴木康之（日本医学教育学会理事長）
	竹内 勤（医療研修推進財団理事長）
	寺野 彰（日本私立医科大学協会会長）
	友田幸一（関西医科大学学長）
	内木宏延（福井大学医学部長）
	榎 正幸（筑波大学医学群長）
	守山正胤（大分大学医学部長）
	山下英俊（山形大学医学部長）
	山口育子（ささえい医療人権センターCOML理事長）
	横倉義武（日本医師会会長）
	吉岡俊正（東京女子医科大学理事長・学長）

監事	小川秀興（医学教育振興財団理事長）
	岡村吉隆（和歌山県立医科大学理事長・学長）
	森山 寛（東京慈恵会医科大学名誉教授）
部会長及び委員長	奈良信雄（日本医学教育評価機構常勤理事）
総合評価部会部会長	奈良信雄（日本医学教育評価機構常勤理事）
評価委員会委員長	奈良信雄（日本医学教育評価機構常勤理事）
基準・要項検討委員会委員長	北村 聖（国際医療福祉大学医学部長）
評価者研修委員会委員長	泉 美貴（東京医科大学教授）
異議審査委員会委員長	田邊政裕（千葉県立保健大学学長）
企画運営部会部会長	福島 統（東京慈恵会医科大学教授）
総務・涉外委員会委員長	吉岡俊正（東京女子医科大学理事長・学長）
財務委員会委員長	福島 統（東京慈恵会医科大学教授）
調査・解析委員会委員長	椎橋実智男（埼玉医科大学教授）
広報委員会委員長	鈴木利哉（新潟大学教授）

2 平成28年度決算が承認されました

平成28年度決算が6月26日開催の社員総会において承認されました。

〈平成28年度決算の概要〉

収入	決算額
入会金収入	9,500,000
会費収入	58,100,000
賛助会費収入	1,100,000
雑収入	255
前年度繰越金	4,818,727
計	73,518,982

支出	決算額
総合評価事業費	11,402,482
総合評価事業	2,367,179
WFME関連事業	9,035,303
機構運営費	48,370,207
人件費	22,221,374
運営費	26,148,833
翌年度への繰越額	13,746,293
計	73,518,982

平成28年度決算及び事業報告の詳細はホームページをご覧ください。

〈平成28年度事業報告の概要〉

機構の目的を達成するため、平成28年度は以下の組織体制及び事業態勢の整備を行いました。

1. 世界医学教育連盟（WFME）認証受審への対応
2. 評価基準及びマニュアル等の作成
3. 評価員養成セミナー等の開催
 - (1) 評価員養成セミナー
 - (2) 事務担当者説明会
4. 公正・適正な評価システムの確立
5. 広報活動の推進
6. その他の運営
 - (1) 理事会、社員総会の開催
 - (2) 委員会の開催
 - (3) 会員の入会
 - (4) 事務局の整備

3 賛助会員を募集しています

当機構は、全国80大学医学部等の総意として、国際基準を踏まえて各医学部の教育プログラムを評価して教育の質を保証します。それにより、臨床能力の高い優れた医師を育成し、もって国民の健康向上に貢献することを目的とします。

医学部・医科大学等の教育の質を高めることは、我が国における医療の水準を一層高め、ひいては我が国の医療を側面から支えている関係各界の発展に資すると考えています。

このような当機構の事業を安定して行うための基盤としまして、以下のとおり各界有志団体等の皆様から、賛助会員としてご支援を仰いでおりますので、よろしくお願いします。

1) 賛助会員の資格について

当機構の事業に賛同していただける企業等の皆様にご入会いただけます。

2) 申し込みについて

賛助会員に入会される場合は、所定の入会申込書に必要事項をご記入のうえ、当機構事務局あてにお送りください。

3) 賛助会費について

年会費は、1口 100,000円です。入会申込書が事務局に到着しましたら、請求書をお送りいたしますので、当機構指定口座にお振込み願います。1口以上何口でも結構です。

4) 会員登録について

賛助会費をお振込みいただくと、会員名簿に登載のうえ理事会及び総会において報告させていただきます。また、当機構パンフレット、ホームページ等にご芳名を掲載させていただきます。

現在ご協力いただいている賛助会員

公益財団法人医療研修推進財団／株式会社医学書院／医歯薬出版株式会社／協和发酵キリン株式会社／グラクソ・スミスクライン株式会社／中外製薬株式会社／株式会社ツムラ／株式会社日本医事新報社／株式会社羊土社（50音順）

■お問い合わせ窓口

日本医学教育評価機構事務局 担当：服部・齋藤
〒113-0034

東京都文京区湯島1-3-11 お茶の水プラザビル6F
TEL: 03-5844-6736 E-mail: info@jacme.org

■ご寄附もよろしくお願ひします

医学教育分野別評価を円滑に推進し、医学教育の質向上を目的とする寄附金です。寄付者は個人、法人を問いません。

○お取り扱い時期：随時

○お申し込み方法等：お問い合わせ窓口は上記と同じです

JACMEの詳しい内容は 今すぐホームページへアクセス！

当機構の概要や評価事業の内容、医学教育分野別評価基準日本版、受審要項、認定大学の情報、トライアル評価の情報などを掲載しています。



<http://www.jacme.or.jp/>

神代 龍吉

久留米大学医学教育研究センター長・教授

記念すべきJACME Newsletter第1号です。今後受審予定の大学の「何を準備したらいいのか?」、「ここが知りたい！」に応えるとともに、受審後に「ここが変わった」も紹介できればと思います。

高木 康

昭和大学副学長（教育改革、IR担当）・特任教授

広報委員会では、JACMEレター、JACMEニュース、JACME Communicationなども候補に挙がりましたが、グローバルな視点からJACME Newsletterに決まりました。定期的にお届けしますので、医学教育評価の参考にしてください。

【編集発行】

 一般社団法人
日本医学教育評価機構

広報委員会

委員長：鈴木 利哉 委員：神代 龍吉、平形 道人、高木 康

〒113-0034 東京都文京区湯島1-3-11 お茶の水プラザビル6F
TEL: 03-5844-6736 FAX: 03-5844-6737
<http://www.jacme.or.jp/> E-mail: info@jacme.org

【JACME Office】

- JR中央線「御茶ノ水」駅 徒歩5分
- 東京メトロ丸の内線
「御茶ノ水」駅 徒歩5分
- 東京メトロ千代田線
「新御茶の水」駅 徒歩6分
- 東京メトロ銀座線
「末広町」駅 徒歩8分

